

収蔵文書の紹介展「収蔵資料にみる昔の旅の和歌・唱歌」開催中！

2014.12.1 (レポーター：土井真由美)

10月31日から収蔵文書の紹介展として「収蔵資料にみる昔の旅の和歌・唱歌」が始まりました。江戸時代後期（特に18世紀以降）：この時代の旅は船か徒歩によるものであり、船から見える海や湊、そして自然の風景や情景を詠んだものが数多く作られました。

明治期：この時代を代表する旅の唱歌が鉄道唱歌です。他に地理教育で使われた広島県唱歌なども作られました。

当館では、これら旅に関する資料を近世の和歌と近代の唱歌に分け、平成27年1月10日まで展示しています。※当館ホームページ「今日の文書館～日常の取り組みを発信する～」で、事前準備の様子もご覧いただけます。

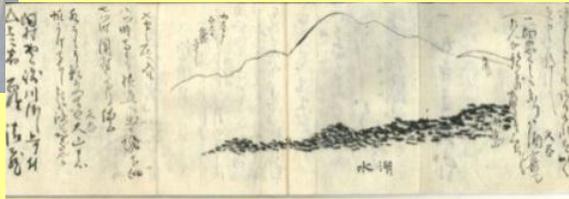
近世の旅の和歌の一部



注目ポイント

1

和歌と共に挿絵を旅日記の中に描いています。挿絵は紙いっぱいに見開きで描いたものもあります。このように自然の風景や旅の情景を描くのに、どれくらい途中時間をかけたのか、美しい風景を絵で残しておきたいという気持ちがうかがえます。筆使いは流れるように、とても繊細な絵は見事です。是非注目して見てください。

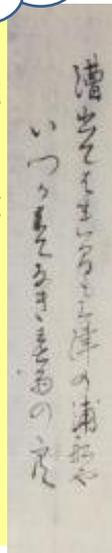


その「道中日記」園村（島根県出雲市）より宍道湖に映る大山を見て。

注目ポイント

2

「玉浦紀行」三津浦を出船して。漕出てはれ間も三津の浦船やいつかはてなき春雨の空



「掛詞」が見られます。それは発音が同じまたは類似したことばに2つ以上の意味を持たせるように表わされています。例えば左記の「三津」は地名の「三津」と「見ず」を掛けています。他の和歌にも掛詞が見られます。2つの意味は何かを探し当てるのも、楽しいと思います。

近代の旅の唱歌の一部



注目ポイント

3

鉄道唱歌は曲調が全く異なる違いが見られます。多梅稚作曲のリズミカルな曲の方が覚えやすいとの理由で広く歌われるようになりました。実際口ずさんでみると、確かにフレーズが繰り返し頭に残る覚えやすいメロディーでした。まさに線路の枕木を走り過ぎるあの音をイメージした曲です。

多梅稚作曲はスキップ系の跳ねるリズム



上眞行作曲はゆったりリズム

展示では旅日記行程と和歌が詠まれた場所を地図上で分かりやすく表しています。

想像するに、現代の移動手段の新幹線等とは違い、自然の風景をゆったりとした気持ちで詠んだのではないのでしょうか。そして和歌を書いた紙の質と筆の相性は良かったのかとか、そんな視点で展示をご覧いただくと面白さが増すと思います。

旅と書と音楽、どれも興味がある私としては、鉄道唱歌が気に入りました。

皆様のご来館をお待ちしています！

注目ポイント

4

「地理教育広島県唱歌」

地理教育のための広島県唱歌が地元の教諭らによって作られました。地理教育のためという事もあり、各地の名所・旧跡などの類が描かれています。地理を歌で楽しく勉強できるように教諭らが作ったのでしょうか。かつて私が歴史の年号を歌で覚えた記憶が蘇りました。

